

『YNU書き言葉コーパス』から見た 複合動詞の使用実態

—日本語母語話者と韓国人学習者との比較—

志 賀 里 美

A Survey of Actual Usage Compound Verbs in the YNU corpus. — Contrasting Japanese speakers and Korean Japanese speakers —

Satomi Shiga

キーワード：日本語教育、複合動詞、使用実態、韓国人学習者、『YNU書き言葉コーパス』

Key words : Japanese language teaching, Compound verbs, usage, Korean Japanese learner, “YNU corpus”

要旨

本研究は、『YNU書き言葉コーパス』で使用されている複合動詞を抽出し、日本語母語話者と韓国人学習者の使用を比較することにより、複合動詞の使用状況を明らかにしたものである。

その結果、①韓国人学習者はそれほど複合動詞を習得できているとは言えず、レベルに比例して複合動詞の使用が増えるわけではないこと、また、使用されている複合動詞の3分の1は誤用であることが分かった。

また、②語彙的複合動詞の使用はバリエーションが少なく、③その代わりに本動詞を使用していたこと、その要因としては、語彙的複合動詞を知らない、もしくは、簡単に授業で学習する語を使用してしまう可能性があること

を指摘した。④一方で、タスクによっては統語的複合動詞の使用がかなり見られ、統語的複合動詞から語彙的複合動詞まで種々の意味を持つ複合動詞を早い段階から教えることにより、更に表現を豊かにできる可能性を示唆した。⑤また、文体の違いによる複合動詞の使用の有無を検討した結果、文体の違いだけではなく、語彙的複合動詞の場合はそれ以外の言い方がないため、使用されている可能性もあり、更なる検証が必要なことも明示した。

1. はじめに

「食べ切る」など「動詞+動詞」のものを複合動詞といい、日本語教育学会編『新版 日本語教育辞典』(大修館書店)で複合動詞という項目を引くと、「動詞との結合は多様で、造語力もあり、重要である。」と記載されている。

永井(1996:140-141)は、複合動詞は「動詞単独では表わしきれないことを表現するという重要な役割を担っている」と述べており、学習者から、「なぜ複合動詞の学習が必要なのか」という質問を受けた際には、「動詞にある意味を加えるときに必要」と説明しているという。また、姫野(1975)では、「複合動詞の使用が少ないと語彙的にどことなく単調で幼い感じを受ける」と述べられている。従って、表現を豊かにするためには、複合動詞を使用する必要があると言え、中上級レベルともなれば、日本語学習者も習得しなければならない項目であると考えられる。

また、陳(2007)は、「複合動詞教育や習得支援の方向性を探るためには、まず学習者の使用状況を調査することが必要」であり、そのためには、日本語学習者の話し言葉における複合動詞の使用状況を調査すべきであるとし、「母語話者コーパス」と「学習者コーパス」という2つのコーパスを用い、話し言葉における複合動詞の使用状況を調査している。その結果、使用場面や学習者のレベルの関係で普段日本語母語話者があまり使用しない複合動詞も多く見られ、更なる調査が必要であることが判明した。

複合動詞の前項動詞(「食べ切る」の「食べ」)と後項動詞(「食べ切る」の「切る」)の結合条件や意味分類に焦点をあてた研究には、長嶋(1976)、寺村(1984)、影山(1993)、由本(2005)など多数あるが、複合動詞の習得に関する研究は、永井(1996)、陳(2006、2007、2008)などそれほど多くはない。

志賀(2017)では、『YNU書き言葉コーパス』を使用し、中国人学習者は

どのような複合動詞が使用でき、反対にどのような複合動詞が使用できていないのか、日本語母語話者との使用状況と比較をし、習得状況を明らかにした。

本研究では、韓国人学習者と日本語母語話者との使用状況と比較をし、習得状況を明らかにしていきたい。

2. 『YNU書き言葉コーパス』と分析方法について

『YNU書き言葉コーパス』とは、横浜国立大学が作成した書きことばコーパスのことで、「日本人大学生30名、留学生60名（韓国語母語話者30名、中国語学習者30名）に対し、12種類のタスクを課すことによって得た計1,080編の作文を、コーパスの形にまとめたもの（金澤編2016：iii）」である。

このコーパスは、①同世代の日本語母語話者と比較でき、②学習者も上位群（以下「H」と記す）、中位群（以下「M」）、下位群（以下「L」と記す）の三つのグループに10名ずつ分けられていることが大きな特徴として挙げられる。なお、調査対象の学習者は三つのグループに分けられてはいるが、概ね日本語能力検定N2以上、もしくは2級以上の者で、比較的上級レベルの学習者である。

12種類の与えられたタスクの指示文には母語訳が与えられる。そして、作文を書く際には辞書の使用は認められておらず、手書きで書く。制限時間は設けておらず、自分のペースで書きすすめたものを、データ化したコーパスとなっている。

今回の調査対象には、「タスク10」「タスク11」「タスク12」の3種類から複合動詞を抽出することにした。「タスク10」「タスク11」は、同じ内容だが、メールの送り先が教師と友人と異なる。複合動詞は、姫野（1975）の指摘にあるように「複合動詞の使用が少ないと語彙的にどことなく単調で幼い感じを受ける」とあることから、教師と友人といった場面による改まり度によっても使用に差が出ると考えられる。そのため、送り相手の異なる「タスク10」「タスク11」を対象にした。そして、「タスク12」は、日本語母語話者の複合動詞の使用が全てのタスクの中で比較的多く見られ、また、「七夕伝説」というストーリーを読んでから作文を書くため、日本語母語話者も韓国人母語話者も同一状況での使用実態が考察できると考え、調査対象とした。なお、志賀（2017）で、中国人学習者は日本人母語話者とは異なるストーリーを描

いており、抽出された複合動詞が異なるということもあったが、やはりタスクとして難しく、複合動詞を用いないと表現できないものが多く出てくるため、今回も調査対象とした。

手順としては、まず、「タスク10」「タスク11」「タスク12」の3種類のタスクから複合動詞を抽出し、その後、日本語母語話者と韓国語母語話者30名分のデータを分析した。

それぞれのタスクの内容は以下の表1とおりでである。

【表1 「タスク10」「タスク11」「タスク12」の内容】

タスク	内容
タスク10	<p>あなたは、英語教育が専門の山下教授から次のようなメールをもらいました。</p> <p>教授「〇〇さん 今早期英語教育に関する意識調査を行っているところです。小学校3年生から週2時間英語の授業を行うという計画があります。〇〇さんは早期英語教育に賛成ですか。それはなぜですか。若い人の生の声を聞きたいので、〇〇さんの意見を教えてくださいませんか。〇月〇日までにお返事ください。よろしくお願ひします。」</p> <p>このメールに対する返事を書いてください。</p>
タスク11	<p>あなたは、仲のよい友達（佐藤さん）から次のようなメールをもらいました。</p> <p>友達「〇〇さん 今、卒論のために早期英語教育に関するアンケート調査をやったんだけど、もっと具体的な意見を聞きたいなと思って…。今さ、小学校3年生から週2時間の英語の授業をやるって計画があるんだけど、知ってるよね。</p> <p>〇〇さん、早期英語教育に賛成する？それとも反対？理由を教えてくださいかな。〇月〇日までメールで返事もらえるとうれしいんだけど。よろしくお願ひします。」</p> <p>このメールに対する返事を書いてください。</p>
タスク12	<p>あなたは、小学校新聞の昔話コーナーで、今の季節に合う昔話を書いてほしいと頼まれました。新聞の発行が7月なので「七夕伝説」のストーリーを書くことにしました。小学生にわかるように、どのような話が詳しく書いてください。（★事前に母語による「七夕伝説」を読ませておく。）</p>

抽出した複合動詞は、基本的に「動詞＋動詞」(「降り始める」「見付ける」「出会う」など)のものを対象とし、抽出した。だが、いわゆる敬語(「申し上げる」、「差し上げる」など)や「行き来する」などの漢語サ変動詞は除外した。また、「引き続き」のような文末での使用がないものも除外した。

3. 日本語母語話者と韓国人学習者の全体の使用状況

まず、全体の使用状況を見てみる。以下の表2は、日本語母語話者(表では「J」と示す)と韓国人学習者(表では「K」と示す)の作文から複合動詞を抽出した数を表にまとめたものである。

表には、左から順に、学習者のレベル(韓国人学習者のみ 上位群「H」、中位群「M」、下位群「L」)、学習者番号、課題のタスク10(T-10)、11(T-11)、12(T-12)に出現した複合動詞の出現数、複合動詞の出現数の合

【表2 3種類のタスクにおける複合動詞の使用状況】

J					K								
学生	T-10	T-11	T-12	総計	レベル	学生	T10	合計	T11	合計	T12	合計	総計
J001	1	0	3	4	H	K004	0		0		0		0
J002	2	1	4	7		K006	0		0		0		0
J003	1	0	2	3		K009	1		0		3/-1		4/-1
J004	1	1	2	4		K010	0		0		2		2
J005	0	0	3	3		K018	1	5	0	1	1	16	2
J006	1	0	5	6		K026	1		0		5/-1		6/-1
J007	0	0	7	7		K027	1		1		1		3
J008	0	0	3	3		K036	0		0		1		1
J009	0	2	5	7		K037	0		0		0		0
J010	0	0	3	3		K039	1		0		3		4
J011	0	0	8	8	M	K003	1		3		2		6
J012	1	1	2	4		K005	0		0		1		1
J013	1	0	4	5		K008	1		0		3		4
J014	0	0	2	2		K012	0		0		2		2
J015	1	0	5	6		K013	0		1/-1	5	5	19	6/-1
J016	0	0	6	6		K015	1/-1	4	0	0	0		1/-1
J017	2	0	5	7		K034	1		1		3/-3		5/-3
J018	0	0	4	4		K035	0		0		3/-2		3/-2
J019	0	0	2	2		K038	0		0		0		0
J020	1	0	4	5		K040	0		0		0		0
J021	1	0	4	5	L	K011	0		0		1		1
J022	0	0	1	1		K019	0		0		0		0
J023	0	0	4	4		K020	0		0		0		0
J024	2	0	0	2		K021	0		0		1		1
J025	0	0	2	2		K023	1/-1	2	1	2	0	3	2/-1
J026	0	0	7	7		K025	0		0		0		0
J027	0	0	6	6		K028	1		0		0		1
J028	2	0	2	4		K029	0		0		0		0
J029	0	0	1	1		K032	0		0		1		1
J030	0	0	3	3		K033	0		1		0		1
総計	17	5	109	131	総計		11/-2		8/-1		38/-7		57/-10
使用無	17人	26人	1人		使用無		19人		24人		13人		
使用有	13人	4人	29人		使用有		11人		6人		17人		
合計	30人	30人	30人		合計		30人		30人		30人		

計を記し、一番下には複合動詞の使用の有無の人数が記されている。

なお、韓国人学習者の場合は誤用もあるため、誤用の数は「—〇」で記してある。例えば、「K009」の学習者は、タスク10は複合動詞の使用が1回あり、タスク11では複合動詞の使用はなし、タスク12では複合動詞の使用が3回あったが、内1回は誤用であったことを「3/—1」と示している。

複合動詞の使用数を比較してみると、日本語母語話者は131例、韓国人学習者は57例と倍以上の開きがあり、やはり母語話者の使用が圧倒的に多い²。

しかし、出現数をタスクごとに考察すると、タスク12が（日本人：109例、韓国人：38例）一番出現頻度が高く、次いでタスク10（日本人：17例、韓国人：11例）、出現が一番少ないのがタスク11（日本人：5例、韓国人：8例）と、日本語母語話者も韓国人学習者も同様の傾向が見てとれる。また、タスクごとの出現数の比率を見ると、タスク10は3（日本人）：2（韓国人）、タスク11は、1（日本人）：2（韓国人）であり、そこまで大きな差が出ているとは言えないだろう。大きな開きを生んでいるのは、タスク12での出現数が原因であることが分かる（比率は3（日本人）：1（韓国人））。このことから、複合動詞が使用されやすい場面とそうでない場面があることが窺える。

タスク12は、『七夕物語』の説明のため、複雑で、複合動詞を使用しないと言い表せないことが多くある。なお、タスク10（教授とのメール）とタスク11（友人とのメール）は、場面の差の違いであるため、文体差により使用の増減が異なることが考えられる。これは、タスクごとの考察の際に詳しく見ていく。

次に、学生ごとの使用状況を考察する。タスクごとに使用の有無があるものの、日本語母語話者はすべての人が3種類のいずれかのタスクにおいて複合動詞を使用しているが、韓国人学習者は3種類のタスクすべてにおいて複合動詞を使用していない学習者が9名（K004、K006、K037、K038、K040、K019、K020、K025、K029）もいる。李（2003）によれば、韓国語にも複合動詞は種々あるという。そして、日本語と韓国語は語順が同じく、さらに同じ語もあるなど非常に近い言語であるため、複合動詞の習得もそれほど困難ではないことが予想できるが、習得できていない学習者が多い。

また、使用できている者でも誤用が目立つ。韓国人学習者で複合動詞を使用していた者は30名中21名だが、うち7名、全体の3分の1の学習者が間違

えている。

最後に使用をレベル別に考察すると、複合動詞を一番使用しているのは、上位群（出現数の総計：22）ではなく、中位群（出現数の総計：28）であった。また、複合動詞が使用できていない学習者をレベル別に考察すると、上位群3名、中位群2名、下位群4名と、それほど大きな差は見られなかった。通常は、レベルが上がるにつれ表現も豊かになっていくと考えられるため、上位群になればなるほど複合動詞の使用も増加すると推測できるのだが、今回の結果からはそのような傾向は見られなかった。

以上、全体の使用状況から、複合動詞の使用を日本人と比べるとかなり使用が見られるといえども、総数としては少なく、レベルが上がったからと言って複合動詞の使用が増えるわけではないこと、複合動詞の未使用者が9名もいること、また、使用されている複合動詞の3分の1は誤用であることが判明し、これらのことから、韓国語学習者はそれほど複合動詞を習得できているとは言えない可能性があると考えられる。

次に、それぞれのタスクごとにどのような複合動詞が使用されていたのかを考察していく。

4. タスクごとの複合動詞の使用状況

4-1 タスク10における複合動詞の使用状況

以下の表3は、タスク10において使用されていた複合動詞を出現頻度順に表にしたものである。

なお、前項動詞をV1（「慣れ親しむ」の場合「慣れ」がV1）、後項動詞をV2（「親しむ」がV2）と示し、誤用である複合動詞は「*」としてある。また、日本語母語話者にも韓国語学習者にも使用がみられた複合動詞は、網掛けで示している。

タスク10では、日本語母語話者、韓国語学習者、両者ともに使用している複合動詞が2語見られた。「成り立つ」と「し過ぎる」である。

韓国語学習者で一番使用が多かった語は「受け入れる」である。この複合動詞は、日本語母語話者には1例も見られない複合動詞であるため、詳しくみていきたい。表4に「受け入れる」の4語が使用されている文脈を載せる。

【表3 タスク10における複合動詞の使用状況】

J		K	
V1+V2	出現数	V1+V2	出現数
慣れ親しむ	3	受け入れる	4
使いこなす	2	習い続ける*	1
取り入れる	2	成り立つ	1
押し付ける	1	触れ合う	1
成り立つ	1	置き換える	1
持ち合わせる	1	受け始める	1
取り組む	1	思い出す	1
やり過ぎる	1	し過ぎる	1
成り兼ねる	1	総計	11
成り得る	1	誤用	2
見掛ける	1		
し過ぎる	1		
言い切る	1		
総計	17		

【表4 韓国人学習者 「受け入れる」の使用文脈】

K027	小学生のように何でも受け入れることができる時期で少しずつ英語を勉強すると、大人になって英語の能力が本当に必要になったとき～。
K039	子供も無理することなく受け入れることができますと思いますので、先生の今回の意識調査には賛成します。
K003	小さい頃から英語に接すると、英語と身近な存在として受け入れることができると思うからです。
K023	早期教育より、子どもがある定度第2国語に受け入れるようにみえたときが一番いいのではないかと思います。

日本語母語話者は「早期英語教育に賛成するのは、早くから英語に慣れ親しむことが子供には大切だからである」と考える人が多く、韓国人学習者は「早期英語教育に賛成するのは、何でも受け入れられる時期からしたほうがいいので賛成である」という考えが多いという意見の違いというものもあるのかもしれないが、もしかすると「慣れ親しむ」という複合動詞を知らないために、「受け入れる」という複合動詞を使用している可能性もある。

次に、後項動詞に注目してみたい(表5)。

後項動詞は「受け入れる」「取り入れる」「書き入れる」「聞き入れる」のように種々の前項動詞につき、生産性が高いものが多い。特に、「V1+始める」(「し始める」「受け始める」)のようなアスペクト形式は学習者がよく習得し

【表5 タスク10における後項動詞の使用状況】

J			K		
V1	V2	出現数	V1	V2	出現数
慣れ	親しむ	3	受け	入れる	4
使い	こなす	2	重視し	過ぎる	1
取り	入れる	2	置き	換える	1
やり	過ぎる	1	触れ	合う	1
し		1	受け	始める	1
取り	組む	1	思い	出す	1
成り	兼ねる	1	習い	続ける*	1
成り	得る	1	成り	立つ	1
押し	付ける	1	総計		11
持ち	合わせる	1	誤用		2
見	掛ける	1			
成り	立つ	1			
言い	切る	1			
総計		17			

ている複合動詞の一つであるため、その使用が見られてもよさそうだが、今回の結果からはそのような複合動詞は見られなかった。これは、日本語母語話者の使用もなかったことから、場面が原因で使用が見られなかったのだと考えられる³。

4-2 タスク11における複合動詞の使用状況

次にタスク11に出現した複合動詞を表6に示す。

【表6 タスク11における複合動詞の使用状況】

J		K	
V1+V2	出現数	V1+V2	出現数
慣れ親しむ	1	習い始める	2
見付ける	1	受け入れる	2
言い切る	1	学び始める	2
組み立てる	1	し過ぎる	1
追い付く	1	使い続ける	1
総計	5	総計	8
		誤用	1

タスク11において、日本語母語話者と韓国人学習者で同じ複合動詞の使用は1語も見られなかった。タスク10とタスク11はほぼ同じ内容で、メールを書く相手が異なるだけである。そして、タスク10では両者同じ複合動詞（「成り立つ」と「し過ぎる」）が2語使用されていたため、同じ複合動詞が使用されてもいいはずなのだが、そうではなかった。また、特に顕著なのが、日本語母語話者の複合動詞の使用数の減少である。これらの要因については、5節の考察の部分で検討を行う。

次に、後項動詞を中心とした結果を見る。

【表7 タスク11における後項動詞の使用状況】

J			K		
V1	V2	出現数	V1	V2	出現数
見	付ける	1	学び	始める	2
慣れ	親しむ	1	習い		2
組み	立てる	1	し	過ぎる	1
言い	切る	1	使い	続ける	1
追い	付く	1	受け	入れる	2
総計		5	総計		8
			誤用		1

この結果を見ると、日本語母語話者はこのタスク11では、先ほど指摘した一語化した語彙的複合動詞⁴を使用しているのだが、韓国人学習者は「学び始める」「使い続ける」のような統語的複合動詞を使用していることが指摘できる。5節にて詳しく考察を行う。

4-3 タスク12における複合動詞の使用状況

次に、タスク12の使用状況についてである。表8がタスク12で日本語母語話者と韓国人学習者それぞれが使用した複合動詞の延べ語数である。網掛けの部分は、日本語母語話者、韓国人学習者どちらにも使用が見られた複合動詞である。

まず、出現数の総計を見ると、日本語母語話者は109例、韓国人学習者は38例である。だが、異なり語数を見ると、日本語母語話者は41、韓国人学習者は28である。出現数だけを見ると一見、日本語母語話者はさまざまな複合動詞を使用しているため、出現数が多いのだと思ってしまうが、異なり語数を比較すると41例と少ない。つまり、日本語母語話者はかなり決まった複合

【表8 タスク12における複合動詞の使用状況】

異なり	J		異なり	K	
	V1+V2	出現数		V1+V2	出現数
1	見付ける	26	1	出会う	6
2	出会う	12	2	見付ける	3
3	引き離す	11	3	見詰める	2
4	見兼ねる	9	4	愛し過ぎる	2
5	愛し合う	5	5	待ち望む	2
6	探し始める	3	6	落ち込む	1
7	織り続ける	3	7	し始める	1
8	やせ細る	2	8	作り上げる	1
9	取り戻す	2	9	見詰め合う	1
10	取り組む	2	10	泣き始める	1
11	泣き暮らす	2	11	頑張り過ぎる	1
12	泣き崩れる	2	12	し合う	1
13	暮らし始める	2	13	見上げる	1
14	巡り会う	1	14	取り組む	1
15	突き落とす	1	15	乗り越える	1
16	探し回る	1	16	泣き放す	1
17	見詰め合う	1	17	探しまくる	1
18	引き裂かれる	1	18	逃げ切る	1
19	泣き続ける	1	19	逃げ回る	1
20	増し始める	1	20	付き合い始める	1
21	見合う	1	21	抱き締める	1
22	着飾る	1	22	付き合う	1
23	見上げる	1	23	言い聞かせる	1
24	泣き悲しむ	1	24	忘れ始める	1
25	入れ替える	1	25	考え出す	1
26	引き連れる	1	26	恋し合う	1
27	繰り出す	1	27	降り出す	1
28	落ち込む	1	28	作り出す	1
29	待ち望む	1		総計	38
30	考え付く	1		誤用	7
31	繰り返す	1			
32	思い付く	1			
33	働き始める	1			
34	惹かれ合う	1			
35	見掛ける	1			
36	取り合う	1			
37	放り出す	1			
38	明け暮れる	1			
39	見付出す	1			
40	し始める	1			
41	呼び寄せる	1			
	総計	109			

動詞をみんなが使用していることが分かる。

では、その複合動詞は何かというと、26例と多数使用された「見付ける」である。この複合動詞は、韓国人学習者にも使用が見られるが、3例しかない。日本語母語話者は、

(1) J003 すると、「ひこぼし」という、とても働き者の男性を見つけました。

(2) J004 「はたらきもののおりひめに合う、まじめな青年を見つけよう」のように、織姫の父である神様が見付けるという話のため、9割近くの人が使用していたが、韓国人の場合は、「紹介する」という表現が12例と一番多く、次いで「結婚させる」6例と続き、「見付ける」は3例で第3位だった(表9参照)。「見付ける」は初級で学習する語であり、さほど難しいとは思われないが、上級者であっても「紹介する」を多用していることから、もしかするとこれは、この調査以前に母語で聞いた話が影響しているのかもしれない。

【表9 韓国人学習者の使用数】

		H	M	L	合計
1	紹介する	7	1	4	12
2	結婚させる	1	3	2	6
3	見付けてあげる	2	1	0	3
4	探す	0	1	2	3
5	会わせる／会う	0	2	0	2
6	結ぶ	0	1	1	2
7	見る	0	1	1	2
合計					30

ただ、使用数は少ないが、上位2語は日本語母語話者も韓国人学習者も同様の結果だった。

しかし、日本語母語話者の4番目に使用が多く見られた「見兼ねる」は1例も見られなかった。このような語彙的複合動詞はやはり難しいようである。

そして、下記の表10のように後項動詞に注目してみると、かなり多くの後項動詞を韓国人学習者も使用していることがわかる。特に、「V1 + 始める」「V1 + 出す」は前項動詞のバリエーションも豊かであり、また、日本語

【表10 タスク12における後項動詞の使用状況】

J				K			
V1	V2	出現数	合計	V1	V2	出現数	合計
見	付ける	26	26	出	会う	6	6
巡り	会う	1	13	し	始める	1	4
出		12		泣き		1	
引き	離す	11	11	付き合い		1	
見	兼ねる	9	9	忘れ		1	
見	合う	1	9	し	合う	1	4
見詰め		1		見詰め		1	
惹かれ		1		付き		1	
取り		1		恋し*		1	
愛し		5		愛し	過ぎる	2	3
増し	始める	1	8	頑張り	1		
し		1		見	付ける	3	3
働き		1		考え	出す	1	3
暮らし		2		降り		1	
探し	3	作り	1				
泣き	続ける	1	4	待ち	望む	2	2
織り		3		見	詰める	2	2
繰り	出す	1	3	見	上げる	1	2
放り		1		作り	1		
見付		1		探し	まくる	1	1
取り	組む	2	2	逃げ	回る	1	1
泣き	崩れる	2	2	抱き	締める	1	1
泣き	暮らす	2	2	泣き	放す	1	1
やせ	細る	2	2	言い	聞かせる	1	1
取り	戻す	2	2	落ち	込む	1	1
考え	付く	1	2	乗り	越える	1	1
思い		1		逃げ	切る	1	1
引き	連れる	1	1	取り	組む	1	1
呼び	寄せる	1	1	総計		38	
着	飾る	1	1	誤用		7	
見	掛ける	1	1				
泣き	悲しむ	1	1				
明け	暮れる	1	1				
落ち	込む	1	1				
待ち	望む	1	1				
探し	回る	1	1				
突き	落とす	1	1				
引き	裂かれる	1	1				
繰り	返す	1	1				
見	上げる	1	1				
入れ	替える	1	1				
総計		109					

母語話者にはない「忘れ始める」「*恋し始める」なども見られる。今までのタスクでは、一語化した複合動詞が目立ち、「V1 + V2」として生成しているというよりも、ひとかたまりの単語として覚えているような印象を受けたが、タスク12では、動詞を組み合わせて生成しようとしている様が見受けられる。これについては5節の考察の部分で詳しく見てみる。

5. 考察

ここでは、タスク10、11、12から見えた事項をもとに考察を行う。

5-1 韓国人学習者が習得しづらい複合動詞 語彙的複合動詞

タスク10において日本語母語話者が一番使用していたのは「慣れ親しむ」という語彙的複合動詞で、3名が使用しているが、韓国人学習者の使用は見られなかった。また、タスク11においても母語話者が使用している「見付ける」「慣れ親しむ」「組み立てる」という語彙的複合動詞の使用は見られず、「学び始める」「し過ぎる」といった統語的複合動詞の使用が多い。タスク12においても韓国人学習者の使用状況で上位にあるのは統語的複合動詞で、語彙的複合動詞は少ない。

では、母語話者の使用が多い「慣れ親しむ」が使われる文脈では、韓国人学習者はどのような語を使用しているのか見てみたい。

まず、母語話者の「慣れ親しむ」の使用場面を確認する。表11のように早期英語教育に賛成する場面で、なぜ賛成するのか理由を述べる部分である。

【表11 日本語母語話者 「慣れ親しむ」の使用文脈】

J013	英語そのものに慣れ親しませるようなカリキュラムであれば行ってもよいのではないかと思います。
J015	中学や高校では必ず習うものなので、早いうちから慣れ親しむことはその後の学習に役立つのではないと思うからです。
J028	文法を初期から始めることには賛成できませんが、英語になれ親しむという意味での英語教育ならば、とても効果的であり良いと思います。

同様の場面で韓国人学習者がどのような文を書いているか比較してみると、表12のようにまとめられる⁵。

「小さいころから」や「小学生から」をキーワードに探していくと、「触

【表12 韓国人学習者 早期英語教育に賛成する理由を述べる文脈】

K004	英語は中・高でも学ばなければならないので、 <u>小さいころから</u> 英語に <u>ふれる</u> ようにしておいたほうがいいかも知れないと思います。
K018	たしかに、外国語は <u>小さいころから</u> 学ぶのが早く身につけられるという考えを持っている人もたくさんいると思います。
K027	<u>小さいときから</u> 、外国語の能力を身に付けておくことによって、しょう来、より広い世界から情報を収集し、自分で考えたことをより広い世界に公表することができるようになります。／小学生のように何でも <u>受け入れる</u> ことができる時期で少しずつ英語を勉強すると、
K037	現在の小学5年からというよりもっと <u>早い段階</u> から英語教育をはじめたほうが、中、高等学校での英語力向上につながると思うからです。
K003	<u>小さいころから</u> 英語に <u>接する</u> と、英語を身近な存在として <u>受け入れる</u> ことができると思うからです。
K005	<u>小学生の時に</u> 英語の教育を入れもっと英語に <u>親しみを</u> 感じさせるようになると英語に接する機会がもっと多くなると思うからです。
K023	もちろん、 <u>早いうちに</u> 英語を始めたら英語がうまくなるかもしれないが、母語の能力もその分下がるかもしれないです。早期教育より、子供がある定度第2国語に <u>受け入れる</u> ようにみえたときが一番いいのではないかと思います。
K033	<u>小学生から</u> 英語を <u>せつする</u> のはいいと思います。

れる」「学ぶ」「身に付けておく」「始める」「接する」「親しみを感じさせる」という語が見られる。つまり、「慣れ親しむ」に近い意味だが、別の本動詞の使用が多いことが分かる。そして、タスク12において日本語母語話者が4番目に使用が多く見られた「見兼ねる」は、韓国人学習者には1例も見られなかった。このような部分を韓国人学習者は単純に「それでとてもおこった王様は」「この二人をみて、結局王様は怒ってしまいました」「これをみた王様は怒って」のように表現しており、それがどのレベルでも多く見られた(表13)。以上のことからこのような語彙的複合動詞はやはり難しいようである。

姫野(1975)は「複合動詞の使用が少ないと語彙的にどことなく単調で幼い感じを受ける」と指摘しているように、やはりこういった複雑なことを言い表すためには、複合動詞が必要となり、その使用ができているとレベルが高いと感じさせる要因の一つとなるため、上級レベルでは覚える必要があり、特に韓国人学習者は語彙的複合動詞の使用が少ないことから、使用頻度

【表13 「見兼ねる」の代わりに他の表現を使用していた場合】

H	K004	そのために、天国は大変なことになりました。ジクニヨがぬのを作らなかつたため人は着る服がなくなり、ギョヌが午の世話を見てあげなかつたため多くの午が死んで、人々は食べものがなくなりました。 <u>それでとてもおこった王様は二人をそれぞれ東と西に送り、会えないようにしました。</u>
M	K003	彼女は服を作らなくなつたから、人々は着る服がなくなりました。そして彼は牛のめんどうをみないから、畑の仕事もできなく、食べものもどんどんなくなりました。 <u>この二人をみて、結局王様は怒つてしまいました。</u> そして王様は二人を離させるために、彼女は西に、彼は東に行かせました。
L	K020	ところが、その2人が結始した後から2人はしごととはしなくて2人きりの愛だけにぼつとうしてしまいました。 <u>これをみた王様は怒つて2人を分からせました。</u>

の高い語彙的複合動詞を選定することにより、効率的な学習が可能となるであろう。なぜなら、学習項目になっているかどうかというのが習得に大きく関与していると思われるからである。「V1 + 出す」のように統語的複合動詞から語彙的複合動詞まで種々の意味を持つ複合動詞を早い段階から教えることにより、更に表現を豊かにすることができるであろう。

5-2 母語話者に見られる複合動詞を使用しない場合のストラテジー① 本動詞の使用

本コーパスは複合動詞を産出するためのコーパスではないため、複合動詞が出現するかどうかについては、書き手の随意である。そのため、先ほど、母国話者が「慣れ親しむ」を使用していた場面であっても使用していない場合も見受けられる(表14)。

【表14 日本語母語話者 早期英語教育に賛成する理由を述べる文脈】

J006	小学生のうちから外国語に <u>触れて</u> いくことで、子どもたちは構えなしに取り組むことができるのではないのでしょうか。
J027	早期に英語教育を始めた方がよいと考えます。

特に、J006の文は「慣れ親しむ」にいれかえても間違いとは言えない。

- (3) 小学生のうちから外国語に触れていくことで、子どもたちは構えなしに取り組むことができるのではないのでしょうか (J006)
- (4) 小学生のうちから外国語に慣れ親しんでいくことで、子どもたちは

構えなしに取り組むことができるのではないのでしょうか（作例）

志賀（2017：88）では「複合動詞はその種類により、言い換えられるものと複合動詞でしか言い表せないものの2種類があること」を指摘したが、これらの複合動詞はまさに言い換えられる複合動詞であると言え、やはり複合動詞には言い換えられるものと、言い換えられない2種類のもが存在することがわかる。

だが、このように見ていくと、複合動詞は何のために使用するのか、という根本的な問いにぶつかるように感じる。「1. はじめに」の部分で少しふれたが、永井（1996：140-141）は、複合動詞は「動詞単独では表わしきれないことを表現するという重要な役割を担って」おり、学習者から、「なぜ複合動詞の学習が必要なのか」という質問を受けた際には、「動詞にある意味を加えるときに必要」と説明しているという。もちろん、「親しむ」という本動詞と「慣れ親しむ」という複合動詞では、ある意味が加えられていると思うが、「触れる」と「慣れ親しむ」の場合は、ニュアンスが若干異なるがどちらにも同じ意味が入っている⁶ため、その場合には簡単で、かつ、授業などで勉強する本動詞のほうを使用する傾向が出てくるのだろう。

5-3 韓国人学習者が使用しやすい複合動詞 統語的複合動詞

5-1において韓国人学習者の語彙的複合動詞未習得を指摘したが、一方で後項動詞の使用状況を見てみると、「V1 + 始める」「V1 + 出す」は前項動詞のバリエーションも豊かであり、また、日本語母語話者にはない「忘れ始める」「*恋し始める」なども見られるため、統語的複合動詞については、ひとかたまりの単語として覚えのではなく、「V1 + V2」として動詞を組み合わせて生成しようとしている様が見受けられる。

また、「V1 + 出す」には、単純に「かばんの中から財布を取り出す」のような中から外への移動という意味だけではなく、「急に雨が降り出して来た」のようなアスペクトの意味もある。今回のタスクでは「考え出す」「降り出す」と両方の意味が出現しており、このことからひとかたまりとして覚えているのではなく、「V1 + V2」と分けて覚えられている学習者がいることがわかり、教え方次第で習得の幅が広がる可能性があるといえよう。

5-4 母語話者に見られる複合動詞を使用しない場合のストラテジー②
副詞的成分の使用

上記で、韓国人学習者は「V1 + 始める」「V1 + 過ぎる」という統語的複合動詞は使用していることを指摘したが、実は日本語母語話者には使用があ

【表15 日本語母語話者が「～始める」という意味を表している文脈】

J 003	T-10	今、現在の社会は急速に国際化が進んでおり、日本でも、多くの外国人を見かけることがあります。そのなかで今の子どもたちは、生活していかなければならないので、英語の習得は必須だと私は思っております。
	T-11	私たちの英語って全然だめだし、小学3年生から始めれば、だいぶ違うと思うから。
J014	T-10	<u>早いうちから</u> 自分とは異なる文化や言語を使う人がいて、言語にはしゅみがある事を <u>学ぶ</u> 良いチャンスにはなると思っています。
	T-11	でも、 <u>早くから</u> 英語に触れることで、海外の人ときちんとコミュニケーションがとれたり、言語のしゅみを考えたりできるから良いと思うんだ。
J015	T-10	<u>早いうちから</u> <u>慣れ</u> 親しむことはその後の学習に役立つのではないかと思うからです。
	T-11	中学からは絶対習うんだし、 <u>早いうちに</u> <u>慣れて</u> おいた方があとでちゃんと勉強する時にもそんなに抵抗なく始められるんじゃないかと思うので。
J 016	T-10	<u>早い段階</u> で英語を導入することにより、どちらも中途半端になってしまう可能性があります。そのような状態になるよりは、きちんと日本語を学習し、高学年や中学校くらいから <u>導入</u> してもよいのではないかと思います。
	T-11	どちらも中途半端になっちゃうよりは、きちんと日本語を学習して、高学年や中学生くらいから <u>始めて</u> もいいのでは？
J 018	T-10	小学3年生から英語教育を <u>始め</u> 、幼いうちに英語の言語としてのおもしろさを伝えていく教育ができれば、関心をもって英語を学ぶことができますと思います。
	T-11	小学3年生から <u>始め</u> れば、受験勉強としてじゃなく、言語のおもしろさとして英語を学べると思う。
J025	T-10	ただ、アルファベットを勉強したり、簡単なゲームなどを通して <u>早いうちから</u> 英語に <u>親しむ</u> のは良いことだと思います。
	T-11	<u>早いうちから</u> 英語に <u>親しむ</u> のはもちろん良いことだと思うんだけど、時期が早すぎない？

まり見られなかった。「V1 + 始める」は日本語母語話者のほうでも「早いうちから英語を学び始めるのはいいことだと思う」のように使用が見られていいと思うのだが、タスク10でも11でも1語も使用が見られないのが少々不思議である。では、このようなとき、日本語母語話者はどのような言い方をしているかを見てみたい。表15に日本語母語話者が「～始める」という意味を表している文脈をまとめた。

タスク11を見てみると、日本語母語話者は、「始める」という本動詞だけを使用する (J003、J016、J018)、もしくは「早くから」「早いうちに」「早いうちから」という副詞で開始の意味を表している (J014、J015、J025)。そのため、複合動詞で「V1 + 始める」という使用がなかったと考えられる。

つまり、日本語母語話者は複合動詞を使用しない場合には、本動詞の使用だけではなく副詞的成分の付加により複合動詞を使わないストラテジーが備わっていることが指摘できる。

5-5 文体差に影響する複合動詞と影響しない言い換え不可能な複合動詞

日本語母語話者のタスク10とタスク11を比較すると、教授へ書く改まったメールには複合動詞が使用され、友人へ書く親しげなメールの場合は複合動詞ではなく動詞が使用されている傾向がみられることから⁷⁾、「場面だけではなく、文体差が複合動詞の使用に影響を及ぼす可能性が窺える (志賀2017: 79)」。

今回、韓国人学習者にも日本語母語話者と同様の傾向が見てとれたが、使用されている文脈を確認すると、日本人とは異なる傾向が見られた。

まず、日本語母語話者の使用状況を確認する。日本語母語話者は表16 (志賀2017: 78 表9を再掲) のようにタスク10のときには複合動詞を使用し、タスク11のときには複合動詞を使用していない。

これらの複合動詞はやはり使用した場合と使用していない場合を比べると、改まり度が異なる印象を受け、姫野の指摘のように動詞のみの使用のほうが幼いというか親しみがあるように感じられ、複合動詞を使用したときのほうが改まった印象を受ける。

次に、韓国人学習者の使用状況を見てみる (表17)。韓国人学習者がタスク10とタスク11で使用していた複合動詞で変動が見られたのは「受け入れる」「習い始める」「学び始める」の3語である。「受け入れる」はタスク10で

【表16 日本語母語話者 タスク10とタスク11の比較】

J002	T-10	もちろん授業の進め方によっては、反対に「英語嫌い」を増やすことになりかねない」と思いますし、現状では小学校の先生が英語をどう教えられるのかという問題もあると思いますが、言いきれなくなっていると思います。
	T-11	もちろん授業の進め方にもよると思うけど…やり方によっては英語が嫌いになっちゃう子も出てくると思うしね。
J015	T-10	中学や高校では必ず習うものなので、早いうちから慣れ親しむことはその後の学習に役立つのではないかと思うからです。
	T-11	中学からは絶対習うんだし、早いうちに慣れておいた方があとでちゃんと勉強する時にもそんなに抵抗なく始められるんじゃないかと思うので。
J017	T-10	グローバル社会の中で英語を使いこなせるのは非常に良いことだと思いますが、それはあくまで自国の文化、言語を確立した上で行うべきだと思います。
	T-11	だって、実習行って思ったけど、小学3年生って、まだまだ日本語も上手く使えてないし。知ってる言葉も少ないしね。

【表17 3語の出現数と使用者】

	T10	T11
受け入れる	4例 (K027、K039、K003、K023)	2例 (K027、K003)
習い始める	0例	2例 (K003)
学び始める	0例	2例 (K023、K033)

は4例の使用があったが、タスク11では2例に減少し、反対に、「習い始める」「学び始める」はタスク10では1例も使用がなかったのだが、タスク11で2例ずつ使用があった。

「受け入れる」に関しては、タスク11のほうが使用者が減少し、日本語母語話者と同様の傾向なのだが、「習い始める」「学び始める」については、反対に増加している。そこで、K003、K023、K033の例文を表18に載せ、タスク10とタスク11それぞれに対応すると思われる語に下線を引いた。

上記の3学習者の文を見ると、K003とK033は日本語母語話者とは反対の状況になっている。つまり、日本語母語話者はタスク10で複合動詞を使用し、タスク11では使用していないのだが、韓国人学習者は、タスク10で複合動詞を使用せず、タスク11で複合動詞を使用しているのである。では、複合動詞を使用したことで改まり度に変化を与えているだろうか⁸。

【表18 韓国人学習者 タスク10とタスク11の比較】

K003	T-10	私はほとんど中学校に入ってから、本格的な英語の勉強を <u>始めまし</u> <u>た</u> 。 それで、もっと小さい頃から、英語に接して、英語を入試のような勉強ではなく、楽しめる時期があったらよかったなとずっと思っています。
	T-11	私はほとんど中学校に入ってから本格的に英語を <u>習い始めた</u> んだけど、そうすると英語を入試のための勉強として受け入れて、どうすれば高い点数がとれるかという点にだけ集中することになるの。もっと小さい時から英語を <u>習い始めて</u> たら、勉強のことは考えずに、もっと英語を楽しめることができたかもしれないのね。
K023	T-10	早期教育より、子供がある定度第2国語に <u>受け入れる</u> ようにみえたときが一番いいのではないかと思います。
	T-11	そのぐらいになったら第2国語を <u>学び始めて</u> もいいのではないかと思うしね。
K033	T-10	<u>早く習った</u> らあとじゅけんのためにもいいし、グローバルの時代の今、社会に出た時もコミュニケーションにやくにたつと思います。
	T-11	最近国際化になって英語の重要性もだんだん高くなったし、 <u>早く習い始めた</u> ら後じゅけんのためにもいいし。

K003、K033の例を見てみると、上記の複合動詞は、日本語母語話者の「なりかねる」「慣れ親しむ」「使いこなす」のように、動詞を複合動詞に変化させたときに感じる改まり度の違いはさほど感じられないように思う。

また、K003の「始めた」と「習い始めた」を比較した場合、

- (5) 英語の勉強を始めました。(K003 T-10)
- (6) 英語を習い始めました。(K003 T-11)
- (7) 英語の勉強を習い始めました。(作例)

(6)と(7)の両者の違いは「習う」の前の「勉強」という語があるかどうかという違いである。もし、(7)のように、「勉強」という語を入れた場合には、意味がおかしく感じられる。それは「習う」という語自体に「勉強」という意味が含意されているからだと考えられる。

そして、K033の「習った」と「習い始めた」を比較した場合は、

- (8) 早く習ったら、あとの受験のためにもいい。(K033 T-10)
- (9) 早く習い始めたら、あとの受験のためにもいい。(K033 T-11)

「習う」という動詞自体に開始という「始める」本来の意味が含意されて

おり、改まり度が異なるかと言われるとそうではなく、意味の違いのように感じる。

実は、日本語母語話者であってもタスク10のときには出現しなかった複合動詞が、タスク11で使用されている場合がある。次にそれらの複合動詞の使用場を考察してみる。

【表19 タスク10には出現しなかったがタスク11で出現した複合動詞】

見付ける	J004	それぞれの子供たちが自分を表現する手段を見つけさせてあげたいな。
追いつく	J009	なぜなら他の多くの国では早くから英語教育が盛んなのに、日本はまだ全然追いついていないから。
組み立てる	J012	日本語との相違から西欧人なりの論理の組み立て方を学ぶ、 <u>って</u> というのが大事な目標だと思うから、

これらの3語を見ると、改まり度を感じるわけではなく、単に語として他に言い方がないため、この語を使用したと考えられるものである。つまり、一語化した語彙的複合動詞の場合は、改まり度には関係なく母語話者は使用していると言える。

以上のことから、複合動詞には改まり度を変えるものと、そうではなく、それ以外の語がないため改まり度には影響しないものがあることがわかるが、ここではそれ以上のことは指摘できず、今後詳細な検討が必要である。

6. 韓国人学習者に見られた誤用

最後に、韓国人学習者の誤用について考察を行う。

韓国人学習者の誤用は、全部で10例であった。表20にタスク番号と学習者、そして誤用とその誤用が含まれる本文、また訂正例と誤用の要因をまとめた。なお、誤用の要因については複数考えられるものがあったため、その場合は複数記入してある。

まず、誤用の要因として多かったのが、「複合動詞の間違い」で3例見られた。3例ともに「V1 + 合う」の間違いで、うち2例は前項動詞に「恋」を使っている。おそらくこれは母語の干渉、もしくは漢字の間違いではないかと考えられるため、複合動詞自体が習得できていないというわけではないだろう。

次いで多かったのは、「活用の間違い」と「可能形の間違い」でともに2

【表20 韓国人学習者の誤用】

	タスク	レベル	学生	誤用	本文	訂正	要因
1	T-10	M	K015	習い続ける	英語についてかるく習いつづきましたが	習い続ける	自他
2	T-10	L	K023	受け入れる	子どもがある程度第2国語に受け入れるようにみえたときが一番いいのではないかと	を受け入れる	前の助詞が間違い
3	T-11	M	K013	使い続ける	小学生が英語を普段使いつづけるところが小学校ぐらいしかない	使う 使える	動詞を使用していない
4	T-12	H	K009	恋し合う	しかしあまりにも恋し合っていたせいで、自分たち仕事は一向に頼みなくなりました。	愛し合って	複合動詞の間違い
5	T-12	H	K026	し合う	ギョヌウとジッコニョはお互いに恋をしあいました。	愛し合い	複合動詞の間違い
6	T-12	M	K034	出会う	しかし二人がであえて、恋におちて、やはりずっと二人でいたいからあまり仕事をやらない。	出会って	可能形の間違い 活用の間違い
7	T-12	M	K034	見上げる	7月7日はぜひ空を見上げてみましょう。	見上げて	濁音
8	T-12	M	K034	見付ける	ラッキーだったらギョヌウとジッコニョをみつけれかもしれませんからね。	見付けられる	可能形の間違い 意味の間違い
9	T-12	M	K035	泣き放す	仕事をせず泣きばなしで、そら国の王は、仕事をがんばると、一年一回は二人を会わせ	泣きっ放し	活用の間違い
10	T-12	M	K035	抱き締める	二人はだきしめてしあわせな一日を過ごしました。	抱しめ合って 抱き合って	複合動詞の間違い

例であった。こちらも複合動詞自体が習得できていないというより、可能形の意味が不確かである、もしくは理解はできているが、作文で実際に使用してみるとうまく使えていないのかもしれない。

また、K023の前の助詞の間違いやK034の「清濁」の間違いについては、直接複合動詞の習得とは関係ない。

レベル別に見てみると、下位群（1名）や上位群（2名）よりも、中位群（7名）に誤用が目立つ。普通は、レベルが上がるにつれ、複合動詞の使用自体も増えるため、その分誤用が増えてくると考えられ、レベルと使用頻度、そして誤用には相関性があることが窺えるのだが、上位群の誤用が少ない。3節で述べたが、そもそも上位群は複合動詞の使用が中位群に比べ少ない（上位群：22 中位群：28）。そのため、上位群の誤用が少なかったと考えられる。

7. おわりに

以上、『YNU書き言葉コーパス』を用い、日本語母語話者との使用状況と比較をしながら、韓国人学習者はどのような複合動詞が使用でき、反対にど

のような複合動詞が使用できていないのか、習得状況を考察してきた。

その結果、まず、全体の使用傾向（3節）から

- ① 韓国人学習者は複合動詞の使用が総数としては少なく、レベルに比例して複合動詞の使用が増えるわけではないこと、また、複合動詞の未使用者が9名もおり、使用されている複合動詞の3分の1は誤用であることが判明し、これらのことから、韓国人学習者はそれほど複合動詞を習得できているとは言えないことを示唆した。

また、タスク10～12の結果（4節～6節）から、②～⑤の4点が見えてきた。

- ② 「慣れ親しむ」などの語彙的複合動詞の使用はバリエーションが少ない。
- ③ もし、それらを言い表したいときには、「触れる」「始める」という他の本動詞を使用していた。その要因としては、単純にその複合動詞を知らない、もしくは、簡単に授業で学習する語を使用してしまうためであることを指摘した。
- ④ 一方で、タスク12では動詞を組み合わせて生成しようとしている様が見られ、統語的複合動詞はかなり使用できていた。そのため、統語的複合動詞から語彙的複合動詞まで種々の意味を持つ複合動詞を早い段階から教えることにより、更に表現を豊かにできる可能性を示唆した。
- ⑤ また、複合動詞の使用の有無は文体の違いである可能性が考えられたため検討を行った結果、文体の違いだけではなく、一語化したような語彙的複合動詞の場合はそれ以外の言い方がないため、使用されている可能性もあり、更なる検証が必要なことも明示した。

特に本稿では日本語母語話者が複合動詞を使用しているのに韓国人学習者が使用していない場合はどのような表現を使用しているか、また反対に韓国人学習者が複合動詞を使用しているのに、日本語母語話者が複合動詞を使用していない場合についても考察を行った。

従来の習得状況を考察する場合には出現した複合動詞を比較し、考察する手法が多いが、やはりそれだけでは不十分であり、使用している場合としない場合の文脈を詳しく考察していくことにより、複合動詞がなぜ使用されるのかが分かってくるように思える。これについては今回は不十分であったため、今後さらなる調査が必要であり、今後の課題としたい。

【参考文献】

- ・李暲洙 (2003) 『韓・日両言語の複合動詞と対照研究—文法と語彙—』 J&S
- ・影山太郎 (1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房
- ・金澤編 (2016) 『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』 ひつじ書房
- ・志賀里美 (2015) 「複合動詞における文法化の一考察」『日本語の文法化と構文化』
ひつじ書房
- (2017) 「『YNU書き言葉コーパス』から見た複合動詞の使用実態—日本語母語話者と中国人学習者との比較」『惠泉女学園大学紀要』第29号 惠泉女学園大学
- ・陳曦 (2006) 「中国人学習者における複合動詞の習得に関する一考察：学習者の作文算出に基づいて」『タクロス 国際コミュニケーション論集』3 名古屋大学大学院国際開発研究科
- (2007) 「学習者と母語話者における日本語複合動詞の使用状況の比較—コーパスによるアプローチ—」『日本語科学』22 国書刊行会
- (2008) 「日本語学習者と母語話者における日本語複合動詞使用状況の比較-作文データベースを用いて-」『小出記念日本語教育研究会』16
- ・寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味 II』くろしお出版
- ・永井鉄郎 (1996) 「実践報告 日本語複合動詞の教育について」『日本語教育』88号
日本語教育学会
- ・長嶋善郎 (1976) 「複合動詞の構造」『日本語講座四巻 日本語の語彙と表現』大修館書店
- ・姫野昌子 (1975) 「複合動詞『つく』と『つける』」『日本語学校論集』2 東京外国語大学
- (1999) 『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房
- ・由本陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語 モジュール形態論から見た日英語の動詞形成』ひつじ書房
- ・日本国語大辞典第二版編集委員会 小学館国語辞典編集部委員会編
『日本国語大辞典 第二版』第11巻 (2001) 小学館
- ・『文化中級日本語Ⅱ』(2003) 凡人社

注

- 1 「出会う」も「出る」「会う」と使用でき、「巡り会う」のように前項動詞にもバリエーションがあるため、今回は1語としては取らず、複合動詞として抽出した。

- 2 志賀（2017：73）で述べたが、複合動詞は場面により使用されないこともあるとの指摘がある。しかし、今回は、日本語母語話者の使用が見られることから、単に複合動詞を使用するような文脈の場面でなかったため、学習者に使用が見られないということではなく、学習者が複合動詞を習得できていないためだとわかる。
- 3 複合動詞は語彙であるので、場面によりその語が使用されるかどうかが決まるため、「複合動詞は場面により使用されないこともあるとの指摘がある。（志賀 2017:73）」そのため、単純に学習者が使用していない複合動詞があったとしても、それが習得できていなかったと結論づけることはできない。単純にそのような複合動詞を使用する場面ではなかった可能性も考えられるためである。だが、母語話者が使用している場面で使用していなかった場合は、使用できていなかった可能性が高くなる。
- 4 複合動詞の研究は、影山（1993）以降、主に「断ち切る」「思い切る」などのV1に直接結合する語彙的複合動詞と「食べ切る」「疲れ切る」などのV1に直接結合するのではなく、補助動詞的に結合する統語的複合動詞の二者を区別し、研究されることが多い。（志賀 2015：206）
- 5 学習者の作文は原文のままなので、誤用も含まれている。
- 6 日本国語大辞典で「慣れ親しむ」の意味を調べると、「いつも接してなじむ。身近なものとしてなれる。」とある。「接して」という部分が「触れる」と重なる意味の部分である。
- 7 詳しくは、志賀（2017：78-79）参照。
- 8 K023は、意見がタスク10、11と異なるため、今回は考察対照から除外する。